

登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会 第5回まちづくり部会 議事録

日時 令和4年9月1日（木）13時30分～15時00分

会場 登別市婦人センター講堂（2F）

出席者 （委員）川西委員、成田委員、太田委員、須賀委員、日野委員

（事務局）【教育部】堀井部長、南雲主幹

【総務部】井上次長、大澤総括主幹

【観光経済部】服部総括主幹

（意見交換会参加者）

三愛病院 千葉さん、登別伊達時代村 岸さん、北海道コンクリート登別工場
家政さん、JCHO 登別病院 山村さん

○部会長 時間となりましたので、これより「登別中学校 学校適正配置に関する地区別
検討委員会」の第5回まちづくり部会を開催いたします。

私は部会長の成田と申します。登別中学校区の事業所の皆様におかれましては、
月初のお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

このまちづくり部会では、まちづくりから見て、登別中学校の統合が果たして
どうなのかということを検討するということで、町内会や各会の代表の方にお集
まりいただき、これまで4回の会議を開催してきました。

ただ、それだけでは各所からの意見が足りないのではないかということで、第
3回会議では、観光まちづくり協議会や登別国際観光コンベンション協会、登別
温泉旅館組合の皆さんにお話を伺いましたが、さらにもう少し各所からお話を聞
きたいということで、本日は皆さんにお集まりいただきました。

教育委員会では、令和7年度に、登別中学校と幌別中学校の統合を想定してい
るということで、それに関して様々なお話を聞いてきたわけですが、本日は、登
別地区の事業所で働く皆さんの現状やこの地区から中学校が無くなった場合の
影響など、良い面、悪い面を含め、忌憚のないご意見を頂戴できればと思ってお

ります。また、中学校を何とか残したいという話になった場合には、お集まりの皆さんから民間としてできることをお話しいただければ幸いです。

それでは意見交換に移りますが、まずはお集まりの皆さんから、事業所で働く皆さんの現状や統合の良い点、悪い点を聞きまして、その後は、部会員は残って、第6回の部会をどのように進めるか、検討したいと思います。

それでは、本日お集まりの皆さんをご紹介します、

三愛病院の千葉さんです。

登別伊達時代村から岸さんです。

北海道コンクリートから家政さんです。

JCHO登別病院から山村さんです。

それではお伺いしますが、事業所で働く方のうち、何割ぐらいの方がこの中学校区にお住まいになっているのでしょうか。また、この地区から中学校が無くなった場合に、どんな影響が出るのかという話をお伺いできればと思います。

○参加者 詳細なデータを確認してきたわけではありませんが、小学校から中学校に進学する子どもの数が20～30人程度ですので、そこから推測すると、社員の子どもは3名程度、子どもが居ない方を含めても、この地区に住んでいるのは10名程度かと思います。

以前は子どもの数も3倍ぐらいは居たと思いますが、やはり食事や買い物など、利便性の問題もあり、登別地区以外、幌別地区や若草地区に住む職員が増えてきて、その結果、子どもたちの数が少なくなっているということだと思います。もちろん、子どもの数が少なくなるのは残念なことなのですが、一方で、少ない学年だと20人を切る例もありますし、増えるということも考えにくい状況ですので、本人の成長にとってはどうなのかと考えております。以前であれば、クラス替えがあつて、人間関係構築の経験ができたり、友人関係が広がったりということもあつたわけですが、同じメンバーで進級していくことになるので、教育的な意味でどうなのかという思いはあります。まちづくりのことを考えれば、中学校があることは重要なことなのかもしれませんが、一方で、子どもたちの成長を考えるとどうなのかなという気持ちです。

○参加者 弊社でも、登別中学校に子どもを通わせている社員となると数名でしょうか。自分を含めて2～3組程度だと思います。その2～3組については、登別小学校、登別中学校を卒業した方が弊社で働き、この地区に住みというケースだと思います。登別本町3丁目に寮があるので、そこに住んでいる方が家庭を持って、この地区に定住してくれればという思いは持っております。ただ、やはり幌別地区に住んでいる方が多いのかなという印象を受けています。

中学校が無くなることについては、子どもたちが育ってきた町ですので、悲しい部分はありますけれど、どこかの段階で何らかの変化はあるものと思っておりましたし、変えていかなければならないということは理解しております。ただ、それが今かとなると悩ましいところがあります。

弊社の社長も、実際に幌別地区から通っている方もたくさん居て、どうしてもこの地区で生活しなければならないわけではないが、この町が活性化すれば良いということは申しておりました。

○参加者 私も登別中学校の卒業生ですので、中学校には思い入れがあります。ただ、弊社の状況としては、登別市民でさえも35名程度で、室蘭市や白老町から通勤する社員も多くなっております。登別地区に限ると、7～8世帯程度かなと思います。工場見学に来た小学生に私どもの工場との関係を聞いても、例えば祖父や祖母が働いていたという子どもさえ2～3名程度です。過去には、登別地区に社宅があり、50～60世帯程度が生活していて、小学校や中学校にも80～90名程度は通っていたと思います。そう考えるとかなり減ってしまったという印象です。これだけ少なくなってくると、これだけ規模の小さい学校で教育していくことがはたして良いことなのか、考えなければならないのだろうと思います。やはり集団の中で人間関係をどう築いていくか、社会性を身につけることが教育の大きな目的のひとつだと思いますので、そう考えると、母校は無くならないで欲しいという思いはありつつも、それがはたして良いことなのかと考えてしまいます。人口が増加している時代は、学校を増やす方向に向かっていたわけですが、人口が減少する中にあるのは、それを縮小する方向に向かうことになるかと思えます。

ので、現在の状態を続けていくことがはたして良いことなのか考えなければならぬと思います。もちろん様々な議論を行った上でなろうとは思いますが、決断していく時期なのかなと感じております。

○参加者 私自身子育て世代であり、去年まで子どもが中学校にありまして、今は高校生になっておりますが、JCHO登別病院では、20代～30代の子育て世代のスタッフが20～30人居ますが、住んでいるところは、登別地区ではなくて、幌別地区、若草地区が多いです。学校入学前はコロポックルの森を利用し、小学校、中学校は居住地の学校へというパターンがほとんどです。コロポックルの森に子どもを通わせている方も2～3人程度いますが、(中学校の統合については)人数が少ないので仕方がないというようなことを言っておりました。ここにあった方が働きやすいのはもちろんだけど、人数が少ないのであれば仕方がないという話をされておりました。幌別地区の小学校や中学校も児童・生徒数は減ってきておりますので、将来的には、もう少し大規模な統合なども考えていかなければならないのかなとも思っております。仕方がないことなのかなと感じています。

○部会長 ありがとうございます。委員の皆さんから質問はございませんでしょうか。私からひとつ質問させていただきますが、いずれの事業所も、登別地区に住んでいる人がほとんど居なくなったということなのですが、この地区にまったく社員が居なくなった場合、災害時の対応などの面で問題は無いものなのでしょうか？

○参加者 事業継続という観点では、様々な検討をしています。事業所が海に面しておりますので、これまでも津波注意報の段階で設備の稼働を停止するというようなこともしていますし、警報が出た場合には、まずは避難することになろうと思います。その上で、事業再開については、グループ企業も含めて、様々な支援体制を計画しています。過去に登別の場合は2回の停電を経験しておりますが、1回目の際は、北海道電力から要請があり、弊社工場が復旧の前線基地となりましたので、電気の供給は早かった状況にありました。また、胆振東部自身の際には、電源車の配置にあたり場所の確保をとの依頼がありました。いずれにしても、やは

り人の命を守ることが第一ですので、ライフラインの確保は考えていかなければならないと考えております。

○部会長 病院の場合、災害時の対応を考え、一定程度はこの地区に住んでいなければならないといったことはないのでしょうか？

○参加者 災害発生を想定して、病院の周りには寮を整備し、職員が居住できるようにしています。また、高齢者福祉施設については、津波浸水が心配される地域にも多くありますので、津波発生を想定し、避難訓練を頻繁に行っております。職員が近くに住むことで、避難時のサポートにもなるわけですが、さきほども申し上げたように、なかなか職員に住んでももらえないということもありますので、避難訓練を繰り返し行い、万全を期すしかないと思っております。また、札幌地区や北海道外から就職するケースも多いのですが、やはりなかなか登別地区に住んでももらえない。そういった意味では、町をもっと賑やかにし、選んでもらえる町にしていかなければならないのだと思います。

○部会長 観光業の場合は、病院や工場とは少し異なる部分もあろうかと思いますが。

○参加者 うちの場合、寮が登別本町3丁目にあるのですが、事業所まで歩いて行けない距離ではないので、災害等で交通機関が麻痺した際などにも、寮から駆け付けることは可能ですので、そうした意味では、社員が近くに住んでいるメリットはあろうと思います。

もう一点、私の同僚は元々寮に住んでいて、結婚して幌別に転居してしまったのですが、その理由としては、登別地区に物件が少ないことが理由だったそうです。長くこの地区に住んでいて、住み続けたいと思っても選択肢が少なく断念せざるを得ないという部分もあるのかもしれない。

○参加者 私も同じ意見です。災害等の際には、職員に参集してもらうことになるわけですが、JCHO もすぐ近くに寮と住宅があるものの、住んでいる人が少ないので、

幌別地区などに住む職員が駆け付けることになるわけです。もちろん職員が近くに住んでいて、短時間で参集できた方が良いわけですが、仕方がないのかなと感じています。

○部会長 寮にはどの程度入居しているのでしょうか？

○参加者 半分程度でしょうか。医師も住んでいるのですが、医師は転勤してしまいますし、子どもが居る場合にこの町で学校に行くとなると、なかなか難しいのかなと思います。

○部会長 住宅手当が支給されているのでしょうか。通勤には交通費が支給されるのでしょうか。

○参加者 若い方は家を建てるケースが多いと思います。家を建てる場所を選ぶ場合には、やはり小学校、中学校が無いとなれば、敬遠されてしまうのかなと思います。最近も、将来、小学校や中学校が無くなるのであればということで、幌別地区に家を建てられたケースがありました。

○事務局 教育委員会が策定したグランドデザインでは、小学校、中学校の将来の見通しを示しているわけですが、登別小学校については、今後も存続していくことを想定しております。

○部会長 事業所としては、寮や社宅を整備して、地元で社員が居住するよう努力しているとのことですが、結局のところ、利便性の面で選ばれないというところがあるのかなと思います。

○参加者 私自身も登別地区で育ち、登別小学校と登別中学校を卒業しておりますので、この町の今後については、非常に心配しております。そうしたこともあって、登別地区に高齢者関連の施設を建設し、その周りに寮を建設することも考えている

のですが、津波浸水地域でもあるので悩ましい部分があります。

また、登別地区に1軒だけ寮があるのですが、独身者で満室となっております。ただ、結婚すると幌別以東に転居してしまう傾向があって、その点はなんとかならないか思案しているところです。

○参加者 同じように、弊社でも、独身時代はこの地区の寮に住んでいても、結婚すると、幌別地区等に転居してしまう。職場は近いに越したことは無いはずなのですが、それでも転居してしまうということは、やはりメリット、デメリットがあってそういう結果になっていると思いますので、この点は確認してみたいと思っております。

○部会長 会社では社宅を持っていると思うのですが。

○参加者 社宅の入居者も今年いっぱい全員が退去することになっております。数年前まで独身寮もありましたが、入居者が居ないので廃止しました。やはり労働力の確保という意味では、現在住んでいる所から通ってもらうということを前提にしなければ、なかなか人が集められない状況があります。

○部会長 会社として、事業所近くに住宅やアパートを整備するという方向ではないということですね。

○参加者 社宅自体がニーズに合っていない。若い社員は社宅には入りたがりません。

○部会長 ありがとうございました。委員の皆さんから聞きたいことはありませんでしょうか。それでは本日はお忙しい中ご参加いただきありがとうございました。意見交換会はこれで終了したいと思います。

(参加者退席)

○部会長 本日は登別地区の事業者の方達をお招きして、意見交換というか、聞き取りを行ったわけですが、我々は2代目、3代目で、ある意味選択無くしてこの地区に住んでいるわけですが、そうじゃない人達に選んでもらうためには、利便性を高めないといけないのだと思います。

○委員 現在でも若い世代に選んでもらえない状況がある中で、仮に登別中学校が無くなってしまった場合には、さらに人が居なくなってしまうのではないのでしょうか。

○部会長 今日いらっしゃることができなかった富浦地区の方にお話を聞いたところ、子どもの数が減っていることを考えれば仕方ないのかなと話されていたとのことです。一方で、中学校が無くなってしまえば、いっそう人が居なくなってしまうのではないかと話されていたそうです。各団体や事業所からひと通り話をききましたので、まちづくり部会としての結論をまとめる作業になろうかと思いますが、教育環境部会はどのような状況でしょうか？

○事務局 教育環境部会もそろそろ考え方をまとめる段階に入ってきて、今まで議論した内容を踏まえて、部会長が考え方をまとめて原案を示し、それを基に意見交換する予定となっています。それぞれの部会で議論をまとめた後、委員会本体でそれぞれの結論を踏まえて、再度議論することになりますので、目途としては、あと1～2回でまとめの作業を行っていただきたいと思っております。

○委員 市教委としては、令和7年度までに、登別中学校を幌別中学校に統合することを目指しているわけですが、例えば小規模特認校にすることで存続を模索するといったことをこの場で話すことは可能なのでしょうか。もう一点、令和7年度までに統合という考え方が示されているわけですが、例えばこの期限を延ばすとして、生徒の人数が何人程度までであれば存続が許容されるのでしょうか。そのあたりを教えていただければと思うのですが。

○事務局 令和7年度までに、登別中学校と幌別中学校を統合する想定を持っておりま

すが、年限については、それに縛られたものではありません。特認校については、登別小学校の存続にあたって検討していきたいと考えておりますが、中学校については、特認校制度を導入することは考えておりません。小学校と中学校では子どもたちにとっての意味合いが異なると思いますし、既に、市教委が考える規模の目安を下回っている現状の中で、はたして特認校制度の導入が生徒数の増加にどの程度寄与するかはわからない部分があります。それによって人数が大きく増えるということは考えにくいものと思います。

○部会長 令和7年4月までに統合すれば、国から何らかの優遇措置が受けられるというようなこともありませんね。

○事務局 ありません。

○事務局 さきほど、そろそろ部会として議論をまとめる時期に来ているという話をいたしました。部会の議論をまとめた後には、委員会本体でさらに検討することになります。その際に事務局として最も心配しているのは、意見の対立で地域が分断するようなことがあってはならないということです。そのためにも、できる限り委員同士で納得した上で、結論を出すことができると考えております。ただ、議論のまとめを行うにあたってですが、理由なく反対ということにはなりませんので、その理由についても詰めていかなければならないと思います。

○委員 事業所の方々の話は、大まかにいうと、まちにあんまり魅力がないから、外に出ていくんだというような話に聞こえました。企画の方もいらっしゃいますけども、まちづくりで考えないといけないのだと思います。飲食するところがないとか、住むところがないとか、そういった部分に対応していかなければこの話は進まないんだと思います。さきほども同様の意見があったように、学校というインフラがないと人の流出は加速するのだから、なんとしても阻止しなくてはならないのかなと私は感じます。我々の役割というのは、まず現状を認識して、今後、まちをどう活性化していくのかという話を進めることだと思います。

○委員 私は教育環境部会にも参加しているのですが、教育環境のことを考えると、もう少し大きな規模でという話になりますし、まちづくりのことを考えると、中学校はあった方がいいということになる。このふたつは切り離して考えられないということを痛感しております。私としては、子どもたちにこの地域で子育てできる環境を残したい気持ちが強いのですが、一方で、教育環境のことを考えれば、このままで良いのかという迷いが生じてしまう。そうした中で、前回、教育環境部会で、覚悟を持つべきだという示唆を受けましたので、私としてはある意味覚悟を持って臨んでいきたいと思っています。いずれにしても、教育環境部会としても、部会としての議論をまとめる段階に入っておりますので、委員会本体にそれを上げていくことになる。ただ、新聞報道などで、令和7年度に統合という情報が出てしまって、決定事項だと誤解している保護者の方もいますので、小学校のPTAでは、教育委員会に来てもらって、説明会を開催してはどうかという話も出ています。いずれにしても、部会から委員会本体に議論を返す段階に来ていると思います。

○部会長 まちづくり部会としても、議論をとりまとめる時期に来ていると思います。さらに他団体などから話を聞くということであれば、そうした場を設けるのはいいのですが、いずれにしても議論をまとめる時期に来ているのは確かだと思います。あと2回程度の会議で議論をまとめていくということによろしいでしょうか？

○事務局 そのような考え方でよろしいと思います。

○部会長 次回は、10月6日の予定で進めたいと思います。意見をまとめる段階になりますので、お忙しいとは思いますがよろしく願いいたします。本日は貴重な時間をありがとうございました。